表彰制度の創設理由

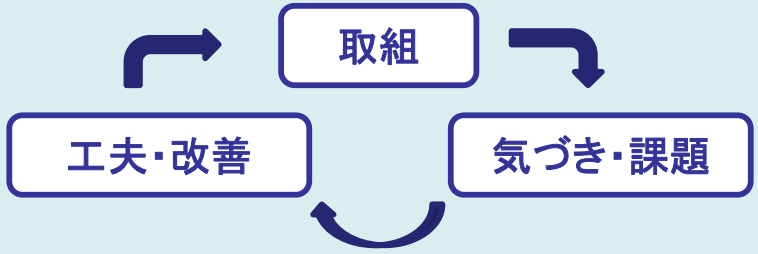
激甚化する自然災害時においても航空ネットワークを維持するため、空港関係者が日々実施している取組や取組の工夫を募集し、内容を横展開することで、全国の空港における取組内容の更なる改善、充実を促し、我が国の空港全体の災害対応能力の向上を図ることを目指し、表彰制度を創設する。

自然災害に対する空港の機能維持・早期復旧のため、空港関係者は日々備えを実施

しかし、自然災害への「完全」な備えはない

予め非常事態を想定し必要な手はずを定めておいたとしても、実際の災害時には必ずしも全てが想定通り進むとは限らない。

災害による被害や影響の軽減や被災地の支援に利用できるようにするため、日々実施する訓練や発生した自然災害対応を通じ得られた気づきや課題、反省から継続的に改善し続ける必要がある。



災害発生時に備え、各空港等において様々な取組や工夫が実施されている

災害に備える取組

・関係機関との連携　・設備・技術等の導入、運用
・訓練　・情報収集・共有方法の検討
・避難誘導方法の検討や避難経路の選定　・滞留者対応の検討
・市民参加型の取組　等

災害対応時の取組

・滑走路等の早期復旧　・関係機関との連絡調整
・情報提供・物資の搬入　・人員の確保　等

各空港で実施されている取組や工夫、積み重ねられた知見に着目

表彰制度を用い、各空港の取組を広く募集 → **よい取組を発掘** → **内容、工夫、知見等を全国へ共有** → **他空港への気づき、取組につなげる**

各空港の取組の更なる改善・充実
→我が国の空港全体の災害対応能力の向上を目指す

空港防災「ひろがる芽」表彰とは？

空港防災「ひろがる芽」とはどんな表彰か？

「ひろがる芽」は自然災害への平時の備えや実際の災害対応の中から、幅広く取組（各空港等で育っている「芽」）を募集し、よい取組を見つけ、取組を行った方を表彰します。

大きな成果や目新しさだけを評価するのではなく、空港の抱えている課題に対する工夫や改善、訓練の工夫等にも目を向け、多様な取組を評価します。

※「芽」：各空港で生まれた取組
「ひろがる」：ある取組が新たな取組のきっかけへつながり、取組が波及していくイメージ

「芽」を見つける
備えとして実施している取組や実自然災害対応として実施した取組を幅広く募集

→

「芽」に光を当てる
よい取組を選定し、取組を実施した個人又は団体を表彰

→

「芽」を共有する
取組実施の背景や工夫、苦労したこと、成果などを全国の空港へ展開

→

新たな「芽」へ
他空港が自らの取組への参考や見直す材料とし、改善や新たな取組につなげる

表彰の対象

自然災害発生時における航空ネットワーク維持のため空港機能の維持・早期復旧へ資する、備えとしての取組又は実際の災害対応において実施した取組（A2-BCPガイドライン制定の2020.3以降に実施の取組に限ります、ただしそれ以前より継続して実施している取組を含みます）

表彰単位

取組単位で募集し、その取組を実施した者を表彰します

表彰の区分

〇災害に備える取組部門

災害への備えとして実施した/している、空港機能の維持又は早期復旧に資する取組であって、空港災害対応能力の向上に特に寄与する取組

（例）関係機関との連携強化、設備・技術等の導入や運用上の工夫、訓練を行う上での工夫、情報収集・共有を行う上での工夫、避難誘導や経路選定の工夫、滞留者対応の工夫、市民参加型の取組　など

〇災害対応時の取組部門

実際に発生した自然災害への対応で、空港機能の維持又は早期復旧に特に貢献を果たした取組

（例）滑走路等の早期復旧、関係機関との連絡調整、情報提供、物資・人員の確保

選考の方法

有識者と航空局職員で構成された選考委員会で審査し、選定された取組の実施者を表彰します